

各種電子たばこ及び加熱式たばこ，スヌースの比較（櫻田尚樹による）

	電子たばこ	加熱式たばこ		スヌース	
					
製品の概要	<p>初期は、紙巻たばこを模した外見の安価で使い切りタイプが主流。その後、タンク式でリキッドを補充できるタイプへ。さらに大型化され、長時間、多量のエアロゾル発生が可能なパーソナル気化器も。タンク式では電源ボタンがあり、多量のエアロゾル発生とともに、長時間の連続使用が可能。</p>	<p>フリップモリス、IQOS。2014年11月名古屋、2016年4月全国販売。タバコ葉を含むスティックをホルダーに挿入し、加熱プレートで内側から300-350℃に加熱。約6分間あるいは14吸吸引可能。</p>	<p>ブリティッシュ・アメリカン・タバコ、glo。2016年12月仙台、2017年7月東京、大阪、宮城、10月全国販売。スティックを本体に挿入し、周囲から240℃で加熱。約3分半吸引可能。</p>	<p>日本たばこ産業、Ploom TECH。2016年3月福岡、2017年6月東京販売。電子たばこの原理で発生させたエアロゾルをタバコ葉を含むカプセルに通し吸引。</p>	<p>日本たばこ産業、2013年8月大阪、2015年9月全国販売。2017年5月にポーションを大型化した新タイプ(上記写真)販売開始。タバコ葉を包んだポーションと呼ばれる小袋を口に含み、唇の裏に挟んで使用する。</p>
法規制・特徴等	<ul style="list-style-type: none"> 各種フレーバー入りの液体を加熱してエアロゾルを発生させ吸引する。ニコチン入りは医薬品医療機器等法(旧・薬事法)で規制。 ニコチン入りリキッドは個人輸入で入手可能。 日本で主に流通するニコチンが入っていない電子たばこは、たばこ事業法の対象外となる消費者製品である。 	<ul style="list-style-type: none"> 全てたばこ事業法の製造たばこであり、パイプたばこに分類される。 紙巻たばこと異なり、パッケージにニコチン、タール量の表示がない。 健康警告表示(注意文言)は、たばこ事業法にもとづき表記あり。 禁煙外来時のCOモニターにおいては、これらの使用者は検出されないため、問診に加え、必要に応じてコチニン測定等の対応が必要。 		<ul style="list-style-type: none"> たばこ事業法の製造たばこであり、口に入れるが、カギ(嗅ぎ)たばこに分類される。 EUでは、禁止されているが、スエーデンは伝統的に使用が続いている。 COモニターでは使用の有無は判別できない。 	